

## 徳島大学附属図書館の学習支援と学生協働 ～With コロナ時代の取り組み～

佐々木奈三江, 國見裕美, 山本豪  
徳島大学附属図書館

### 1. はじめに

徳島大学附属図書館（以下当館）は、2020年3月に「徳島大学附属図書館ビジョン2020」<sup>1)</sup>を策定し、教育支援の重点的な取り組みとして次の3項目を掲げた。

- ① 「知の広場」の創出
- ② 読書振興策による読む力の向上
- ③ 学生協働による学習支援

このうち②は、電子書籍の重点整備・利用拡充など、時代に即応したサービスを含むものの、従来からある図書館の基幹業務である「資料収集・提供」をより強化するものである。一方、①、③は、大学教育のアクティブ・ラーニングの推進に伴って導入されるようになった比較的新しい取り組みである。当館では、2009年の附属図書館本館の改修以降、ラーニング・コモンズの設置により図書館を学生の交流の場とするとともに、学習相談などの人的支援の提供を進めてきた。特に2013年から開始した学生協働による学習支援<sup>2)</sup>は、全国でも先駆的な取り組みである。徳島大学のピアサポート団体「学びサポート企画部」とともに学習相談窓口 SSS (Study Support Space) の開設、レポートの書き方講座や各種イベントを実施しており、学生のニーズに合わせた学習支援を展開してきた。

### 2. コロナ禍における取り組み

ところが、2020年3月以降の全国的な新型コロナウイルスのまん延は、当館が進めてきた来館型のサービスを著しく後退させることとなった。そこでこれまでのサービスの代替となるような新たな施策を実施し、図書館サービスの継続を図ってきた。以下にいくつかの例を挙げる。

#### (1) 資料提供

臨時休館や開館時間の短縮が繰り返されたことで、物理的に資料にアクセスすることが困難となった。そこで、貸出図書 of 郵送サービスや貸出冊数の見直し（5冊→10冊）を行い、資料を入手できる機会の増加を図った。また、従来から提供していた電子リソース（電子ジャーナル、電子書籍、データベース等）について、来館してなくても使える方法と共に図書館ホームページで紹介<sup>3)</sup>し、メール等で周知を行った。

#### (2) 交流の場としての図書館

コロナ禍における学生の孤独やコミュニケーション不足を改善することを目的として、2020年12月より「オンライン読書室」の開催を始めた。これは本学の学生を対象に、オンライン (Microsoft Teams) 上で同じ時間に集まって読書やフリートークを楽しむイベントである。フリートークでは、図書館と協働で活動しているピアサポート団体「阿波ビブリオバトルサポーター」のメンバーがファシリテーターを務め、学生にとって親しみやすい場づくりが可能となった。これは、これまでの学生協働で培ってきた関係によりもたらされた成果といえる。

#### (3) 学生協働

大学の方針として、学生の課外活動は制限され、学生協働の単発的なイベントはもとより、SSSの開室も難しい状況となった。SSSは2020年8月までは開室していたが、その後は中止、感染状況が落ち着いている2021年10月現在も開室に至っていない。SSSは、図1のとおりコロナ禍以前にはかなりの相談件数があり、現在も潜在的なニーズはあると考えられる。オンラインでの開室等も検討したが、SSSとして開催することの意義が

見出しがたく、実施に至らなかった。

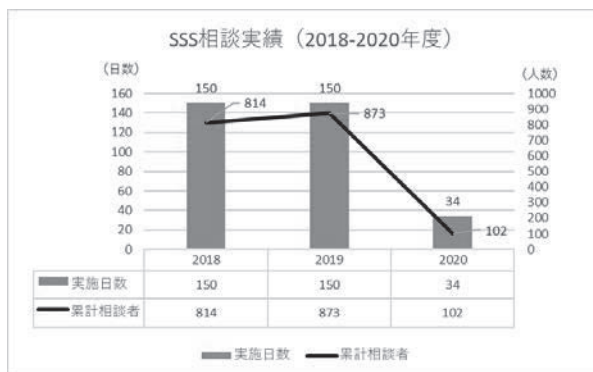


図1 SSS相談実績 (2018-2020年度)

また、活動が出来ない状況が続いたことで、学生のモチベーションの維持が難しくなり、活動の継続が危ぶまれる時期もあった。今後どのように活動していくのか、模索しているところである。

### 3. 取り組みの評価

#### (1) 利用者アンケート

当館では毎年、自己点検・評価の参考としてアンケートを実施している。2020年度のアンケート結果<sup>4)</sup>では、電子書籍の認知度が顕著に向上した。一方、SSSの認知度は微減となっている。また、2020年度の特別な項目として「コロナ禍で利用できなくて困ったこと」を尋ねたところ、学部学生では「自習の場所」(61%)、「資料の利用」(49%)、「コミュニケーションの場」(16%)などが上位となっており、場としての図書館が求められていることを示す結果となった。なお、院生、教職員では「資料の利用」がもっとも多く、属性により図書館に求めるものが異なると考えられる。

#### (2) 利用統計<sup>5)</sup>

臨時休館等の影響で、2020年度の来館者数、貸出冊数はいずれも例年を大きく下回り、8割程度にとどまった。一方で、電子書籍のアクセス数は例年の約3倍と大幅な増加となり、利用者アンケートの結果を裏付けるものとなっている。

### 4. まとめ

2020年9月に出された提言「コロナ新時代に向けた今後の学術研究及び情報科学技術の振興

方策について(提言)」<sup>6)</sup>では、大学図書館及び多様な学術情報のデジタル化の必要性が示された。当館でもすでにその方向で取り組みを進めているところであるが、ただ資料をデジタルにすればよいのではなく、その存在を効果的に利用者に伝え、活用されるよう図らなければならない。その際、必要となるのが学生のニーズや情報探索行動の把握、学生に対する広報の工夫などである。こういった「学生の目線」に立てる仕組みとして、学生協働はますます重要となるだろう。また、学内で提供されているデジタル教育コンテンツやオンライン教育の在り方等についても情報収集をすすめ、図書館が持つ資料や場の効果的な利活用に向けて、関連部署と連携を図っていきたい。

### 参考文献

- 1) 徳島大学附属図書館(2020)「徳島大学附属図書館ビジョン2020」(<https://www.lib.tokushima-u.ac.jp/pub/vision/vision2020.pdf>)
- 2) 佐々木奈三江・亀岡由佳(2018)「学生・教職員と共に創る学習支援の場としての図書館」, 大学図書館研究, 110, 2023-1-11
- 3) 徳島大学附属図書館ホームページ「自宅から利用できる電子リソースの利用範囲拡大について」(<https://www.lib.tokushima-u.ac.jp/guide/covid-19.html>)
- 4) 徳島大学附属図書館(2020)「令和2年度 徳島大学附属図書館アンケート結果」(<https://www.lib.tokushima-u.ac.jp/guide/qanda/pdf/syousai202011.pdf>)
- 5) 徳島大学附属図書館(2021)「徳島大学附属図書館年次報告書 令和2年度」, 7-10 (<https://www.lib.tokushima-u.ac.jp/pub/nenjihouku/pdf/R02.pdf>)
- 6) 科学技術・学術審議会学術分科会・情報委員会(2020)「コロナ新時代に向けた今後の学術研究及び情報科学技術の振興方策について(提言)」([https://www.mext.go.jp/content/20201105-mxt\\_sinkou01-000010450\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201105-mxt_sinkou01-000010450_001.pdf)) (参照日はいずれも2021年10月25日)